

日本聖公会東京教区 大森聖アグネス教会

# 馬込め便り



## 254号

2026年4月26日発行  
編集・印刷：  
馬込便り編集グループ

日本聖公会 東京教区 大森聖アグネス教会  
管理牧師 司祭 シモン・ペテロ 上田憲明  
〒143-0025 東京都大田区南馬込 1-58-8  
Tel&Fax (03) 3771-3459  
Eメール：[agnes.tko@nskk.org](mailto:agnes.tko@nskk.org)  
ホームページ：[www.nskk.org/tokyo/church/oomori/](http://www.nskk.org/tokyo/church/oomori/)



### \*巻頭言\*

《三度も私を愛しているかと訊く  
イエスさま》

管理牧師

司祭 シモン・ペテロ 上田 憲明

イースターおめでとうございます。イースターのお祝いは七週間に渡って続きます。その七週間の前半では、イエスの復活についての福音書が読まれることとなります。

ヨハネによる福音書の二十一章では、弟子のひとりであるペトロに復活したイエスさまは三度、「私を愛しているか」と問いかけています。これは、イエスさまが十字架にかけられる前のストーリーと繋がっています。

イエスさまは最後の晩餐の後、「弟子たちはイエスさまを見捨てて逃げ去るだろう」と予告されました。弟子たちは口々に、「たとえ死ぬような目にあってもイエスさまにどこまでもついて行きます」というように答えます。さらにペトロは、「みんながつまずいても、わたしはつまずきません」とイエスさまに宣言するのですが、イエスさまは、「あなたにはわとりが二度鳴く前に、三度私を知らない、と言うでしょう」と答えられ

ます。(ペトロが、よく鳴いている鶏と結びつけて語られるのはそのためです。)

実際に、イエスさまが十字架につけられることになる裁判を傍聴しようとした時に、周囲にいる人に、「あなたも、あの人の仲間なのではないか？」とペトロは問いかけられ、咄嗟に「違います。あんな人のことは知りません」と答えてしまいます。さらに問いかけられ、三度目には呪いの言葉さえ口にしながら、「あんな人のことは知らない」と答えます。そこで、にわとりが鳴いた声が聞こえて、ペトロはイエスさまのおっしゃられたことを思い出して、泣き出してしまいます。(イエスさまは、その後、十字架につけられ殺されてしまっただけで、復活されません。)

そして復活したイエスさまがペトロに尋ねる表題の話になります。一度目、二度目は、「アガペー」(無償の愛、不変の愛)で愛しているかと尋ねられ、ペトロは「フィレオー」(友愛)の意味の愛で、「わたしがあなたを愛しているのは、あなたがご存じです」と答えます。それらの答えを聞きながら、イエスさまは、三度目には、「フィレオー」の愛で「わたしを愛するか」と尋ねておられます。それは、三度イエスさまを知らないと言ってしまう、三度目には呪

いの言葉さえ出して「知らない」と言ったペトロの言動を、白日の下に晒しながらも、それを受け止め、赦そうとしておられるイエスさまの姿が描かれているように思います。ペトロが心から赦されたと感じるには、このように自分の弱さを思い出し、突き付けられると同時に、自分を受け入れられているという体験が必要だったのではないのでしょうか。また、イエスさまはそういう赦しの言葉と共に、「小羊を飼いなさい」とか、「羊を養いなさい」とこれからのペトロの使命についても語られます。ここを読む時、大胆に問題に切り込みながらも、癒しがもたらされ、再び立ち上がらせるような丁寧なカウンセリングの場面を思い起こさせるように感じます。再び立ち上がったペトロが、弱さを抱えた人たちを勇気づけ、立ち上がらせていく人になって活躍する続きの話は使徒言行録などに載っているので、復活節はその辺りも読むことになっていきます。

